



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DPL新横浜Ⅱ新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県横浜市都筑区川向町字南郷地388号111番1(施行地区内6街区1,2号)	構造	RC造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	580人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、学校、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 竣工	評価の実施日	2021年2月17日
敷地面積	41,273 m ²	作成者	田村、加藤、川村、小田原
建築面積	20,510 m ²	確認日	2021年2月17日
延床面積	98,258 m ²	確認者	宮本信之、山口雅一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺環境に配慮し、周辺道路沿いに緑地を配置するとともに、屋上緑化を行い、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。また、将来の用途変更や、設備システムの更新性に配慮するとともに、設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。	その他 0
Q1 室内環境	事務所部分において、化学汚染物質の抑制、建物全体を禁煙とするなど、室内環境に配慮した計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 横浜市の色彩計画基準に則り、色彩計画を実施するとともに、通りからの見え方に配慮し、道路際に植栽帯を計画した。また、地上だけでなく、屋上緑化も実施し、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。
LR1 エネルギー	設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ の排出量を削減し、地球温暖化の防止を図った。また、No-x、Sox等の排出をさせないことで、大気汚染の防止に努めた。
Q2 サービス性能	将来の用途変更や設備システムの更新性を考慮し、階高、空間形状、荷重のゆとりを確保した。また、将来用の給排水設備及びスリブを設け、配管の更新性や給排水設備の追加に対応した。	
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用し、水資源負荷の低減に努めた。また仕上げ材に有害物質を含まない材料を使用し、環境負荷削減を図った。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

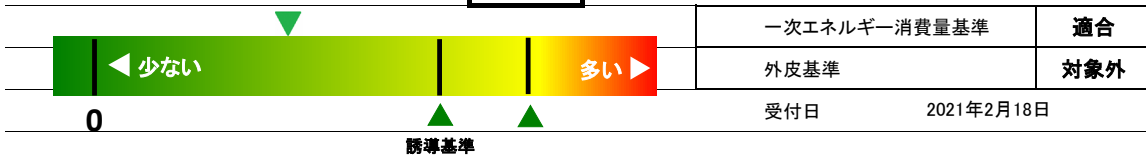
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)DPL新横浜Ⅱ新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **55** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

周辺環境に配慮し、緑地を配置するとともに、屋上緑化を行い、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇の抑制に努めた。将来の用途変更や、設備システムの更新性に配慮するとともに、設備システムの効率化を図り、省エネルギー対策を行った。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。

建物全体を禁煙としている。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

事務室の天井高さは2.9m以上としており、全面に窓を計画している。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

免震構造とし、防災への配慮をしている。

耐用年数20年以上を有している材料を利用している。

ほぼ亜鉛鉄板を使用し、多湿部などはガルバリウム鋼板を使用。

中央式空調方式を採用せず、各居室ごとにシステムを分割している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

外構緑化指数を20%以上確保している。建物緑化指数を5%以上確保している。維持管理に必要な設備を設置している。

横浜市の色彩計画基準に則った、色彩計画を実施するとともに、通りからの見え方に配慮し、道路際に植栽帯を計画している。

敷地境界線上は、メッシュフェンスを設置する事で、見通しのよい計画としている。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.7
(仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境										2.9
1 音環境				3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			-
1.2.1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-			-
1.2.2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-			-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.00	-	-			-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.00	-	-			-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-			-
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-			2.6
2.1 室温制御				2.2	0.50	-	-			-
2.1.1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2.1.2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-			-
2.1.3 ソーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.37	-	-			-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.20	-	-			-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-			-
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 屋光利用				3.0	0.30	-	-			-
3.1.1 屋光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.60	-	-			-
3.1.2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	-	-			-
3.1.3 屋光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-			-
3.2.1 屋光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00	-	-			-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	-	-			-
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-			3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-			-
4.1.1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				2.3	0.30	-	-			-
4.2.1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-			-
4.2.2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-			-
4.2.3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			-
4.3.1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-			-
4.3.2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.6
1 機能性				3.3	0.40	-	-			3.3
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-			-
1.1.1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
1.1.2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-			-
1.1.3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-			-
1.2.1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
1.2.2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
1.2.3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.33	-	-			-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-			-
1.3.1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
1.3.2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30	-	-			3.5
2.1 耐震・免震				3.4	0.50	-	-			-
2.1.1 耐震性		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-			-
2.1.2 免震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	5.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.30	-	-			-
2.2.1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-			-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-			-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-			-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				3.6	0.20	-	-			-
2.4.1 空調・換気設備		防災	⑮信頼性	5.0	0.20	-	-			-
2.4.2 給排水・衛生設備		防災	⑮信頼性	4.0	0.20	-	-			-
2.4.3 電気設備		防災	⑮信頼性	4.0	0.20	-	-			-
2.4.4 機械・配管支持方法		防災	⑮信頼性	4.0	0.20	-	-			-
2.4.5 通信・情報設備		防災	⑮信頼性	1.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				4.2	0.30	-	-			4.2
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-			-
3.1.1 階高のゆとり				5.0	0.60	-	-			-
3.1.2 空間の形状・自由さ				5.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-			-
3.3.1 空調配管の更新性				4.0	0.20	-	-			-
3.3.2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-			-
3.3.3 電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
3.3.4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-			-
3.3.5 設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-			-

CASBEE[®]横浜 | 評価結果 | 2-143



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)DPL新横浜II新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q3 室外環境(敷地内)		-	0.39	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0		
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑫地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.7		
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	5.0		
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	4.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	2.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価		-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.3		
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4		
1.1 節水		4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		3.4	0.60	-	-	3.4		
2.1 材料使用量の削減		4.0	0.10	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-		
1 消火剤		-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.4		
1 地球温暖化への配慮		4.0	0.33	-	-	4.0		
2 地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6		
2.1 大気汚染防止		5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮		2.7	0.33	-	-	2.7		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	-		
1 騒音		-	-	-	-	-		
2 振動		-	-	-	-	-		
3 悪臭		-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.67	-	-	-		
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制		2.3	0.33	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	-		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-		
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-		
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
2 適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
3 結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	-	-	-	-	-		
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	-	-	-	-	-		